

知床五湖の利用のあり方協議会（第2回）議事録

1. 場所：知床世界遺産センター レクチャールーム

2. 日時：平成21年4月24日（金） 16:00～18:20

3. 出席者：別紙のとおり

4. 配付資料

資料1-1 知床五湖の利用のあり方協議会（第1回）議事録

資料1-2 知床五湖地上歩道の利用調整の手法

資料2 地上歩道の周回の方向について

資料3 知床五湖利用コントロール導入実験実施要綱（案）

資料4 知床五湖園地の高架木道整備状況について

資料5 会議資料等の公開について

参考資料 知床五湖の利用に関するお知らせ（ウトロ自治会総会での説明用）

5. 議事概要：

議題1. 前回協議会の結果確認について（資料1-1、1-2）

環境省：資料1-1に基づき、「知床五湖の利用のあり方協議会（第1回）議事録」及び資料1-2に基づき「知床五湖地上歩道の利用調整の手法」について説明。

全員：異議なし。

（5）議題2. 地上歩道の周回方向の決定（資料2）

環境省：資料2に基づき、「地上歩道の周回方向」について説明。現在と同じ方向（案1）と逆方向（案2）のいずれにするか決定したい。

知床斜里町観光協会：地上歩道と高架木道の連結は確実に行われるということで間違いな
いか。

環境省：地上歩道から高架木道へ上がる方向のみだが、連結をする方向で間違いな
い。

ウトロ地域協議会：地上歩道から高架木道への連結ルートを作ったときに、高架木道から
地上歩道へおりる人をどのようなかたちで防止するのか。ソフト面でやるのかそれともハ
ード面でやるのか。

環境省：基本的にはハード面で行う。一方通行でしか入れないような機材を入口に設ける
形を検討している。又、一方通行である旨の表示を行う。これらの詳細の構造はこれから
詰めていく。

しれとこ・フォーラム21：案2では2湖の展望地には行くことが可能か。

知床財団：5湖から2湖まで回った場合には通るが、中ルート（2湖→1湖→高架木道と
いうルート）で回ったときには行かない。

斜里町：中ルートで2湖の展望地に行くと往復利用が出てきてしまい、利用者の混雑の問
題、植生保護対策上及びクマに対する安全対策上好ましくないという理由で2湖の展望地
に行かないこととしている。加えて、高架木道が延長され、1湖の湖面に映る連山を見る
ことができる新たな展望台ができるので、そちらの方に魅力を移して行って五湖らしい景
色が楽しんでもらうことを考えている。どうしても2湖展望地からの眺めを見たい方は、5
湖から入って一周回ってもらうのがよい。

ウトロ地域協議会：森の中で景色を見るときに5湖側から入ると知床連山を背にして入る
ことになる。湖面に映る連山を見ながら回れるルートである案1が条件としてはよいと思
う。このことについて、ガイドの人の意見を聞きたい。

知床ガイド協議会：5湖から回った場合、3湖に関しては、羅臼岳をしっかりと見ながら入
っていくことになる。また、5湖から回っていくと暗い中からだんだん明るい方へ向かっ

ていくことから、開放感というのも出てくるという気がしている。私は、案2が好きである。

知床ガイド協議会：好みの部分が多いのではないか。ガイドとしては決まった中で、最大限にお客さんに喜んでもらえるようにするのが仕事。ルートがどちらでもあまりこだわらないところはある。

ウトロ地域協議会：植生保護期では、地上歩道から高架木道への連結ルートは付けるという前提の中で、一方通行の方が当然植生保護のためにいいと思う。また、体力等に応じてルートを選べるという面では中ルートがあったほうが良い。

しれとこ・フォーラム21：色々な年齢層を考えたときに、2湖から1湖を経て高架木道というコースは意外と長い。1湖から2湖を最短で帰るコースを考えて欲しい。

環境省：すれ違いが発生することで、ヒグマを挟み込むおそれがあるため、安全性の観点や、植生保護の観点から一方通行を基本とすることを考えている。新しく完成する高架木道の延長は約800mなので所要時間が片道15分から20分程度になる。距離は若干延びるが、高架木道は足下が平坦で歩きやすいことを考えると、現在の1湖～2湖のルートと、所要時間はそれほど変わらないと考えられる。

しれとこ・フォーラム21：大きな方向については案2に賛成。ただし、植生保護期の利用の仕方、入口から2湖から1湖を経て高架木道という中ルートは不要。むしろ、地上歩道を5湖から2湖まで見て入口まで帰ってくるコースを設定すべき。5湖から回ってくる時に途中でしんどくなったから早く帰ろうかという人もいるだろうし、ヒグマが出没したので出てくださいといわれた際にも、間でも出てくることのできる方が便利だと思う。このようなことから、2湖から入口に戻ってくる方がよいと思う。

環境省：原則一方通行だが、具合が悪くなった人に対してまで引き返しを禁止するつもりはない。そのあたりはうまく事前レクチャーの中で情報を伝えることで対応できると想定している。ヒグマが出没した際には、高架木道に上がった方が安全であると考えている。

知床斜里町観光協会：入口から2湖から1湖を経て高架木道という中ルートをなくすというについては、この場では了承できない。持ち帰って検討させてもらいたい。

知床民宿協会：実際に歩いたら色々な意見が出てくる。現時点では、利用者にとって選択の幅があった方がよい。よって、中ルートは設定すべき。1～2年やって不都合であればそのときに変更すればよい。

環境省：入口から2湖から1湖を経て高架木道という中ルートを設定すべきという意見と、5湖から4、3、2湖を経て入り口に戻るというルートを設定すべきという意見と、2つ意見が出ているが、これらについては、次回に決定することとし、全体の方向性としては、現在と逆方向の案2ですすめるということによろしいか。

全員：異議なし。

(6) 議題3. ヒグマ活動期の利用のコントロール導入実験実施要綱(案)(資料3)

知床財団：資料3に基づき、「ヒグマ活動期の利用のコントロール導入実験実施要綱(案)」について説明

しれとこ・フォーラム21：ガイドは、この案で了承しているのか

知床ガイド協議会：ガイド協議会としては、コントロール導入実験については理解しており協力はするが、ガイド引率でのみ地上歩道を利用できるということについては、我々の理想とする方法ではない。ガイド協議会が以前から要望しているのは、ヒグマへの適切な対応と利用のルールを守れる人であれば誰でも利用を認め、その中でお客様を引率する場合については条件を増やすという2段階の審査方法である。立ち入りの制限は、あくまで自然保護とヒグマに対する安全性の確保のためであり、地元のガイドが営利を独占するためではないと、外部の人からも分かるようにしていただきたい。

環境省：ヒグマ活動期については、ガイド引率の方のみが地上歩道を利用できるということについては、前回の協議会でも合意いただいた事項である。ヒグマ活動期については、ガイド引率という方法を確立させた上でその後で、地域の個人の方がどのようなかたちで入れるのかについて検討していきたい。地域の人への利用に配慮をというご意見については、忘れていたわけではないがしるにしているわけではないが、両方一緒に検討を進めるというのは、スケジュール的にも厳しいことを、ご了承いただきたい。

ウトロ地域協議会：網走や清里のガイドでも五湖を利用しているガイドはいるが、夏場に知床五湖をガイドしている人数を把握した上で、受付の20人という人数に限定したのか。

知床財団：知床五湖で頻繁に活動されているガイドは、20から30名程度と把握している。

ウトロ地域協議会：今回の講習の定員の20名を、もっと増やすべきではないのか。

知床財団：今回の認定は、実験のための認定である。ガイドの人たちが忙しくなる前に実験をしなければならず、そこから逆算して、スケジュールの面から20名という数字が出てきている。

知床民宿協会：今回の実験20名程度としてあるが、倍の40名の応募があった場合どうするのか。

環境省：今回は、実験のための認定なので、大人数の場合には6月末の実験に協力してくれるガイドを優先し、それ以外は安全性の観点やスケジュールの中でどの位の人が入られるかを含めて検討する。なるべく応募者全員に受けてもらえるよう調整をするが、あまり人数が多い場合研修の効果が落ちる心配もあり、場合によっては講習の有効性や安全度を考えお断りすることもあるかもしれない。その場合、6月の実験に確実に協力してもらえるガイドを優先させていきたい。

しれとこ・フォーラム 21：五湖での有償ガイドの活動が 30 日以上という応募条件に合致するガイドは何人くらいいるのか。

知床ガイド協議会：正確ではないが、20 から 25 名くらいになると思う。

知床財団：応募条件の知床五湖での 30 日以上のガイド経験というのは、五湖でそれくらい活動されていれば過去にクマとの経験というのものもあるだろうということを条件としている。地元に住んでいるという条件付けはしていないが、ある程度五湖のことを知っている方が応募してこられるというのを前提としないと、講習の日程をもっと長くしたり、認定の内容を細かくしたりする必要がでてきて、今回のスケジュールでは厳しいと判断した。

知床民宿協会：今回の認定を受かった人は来年の認定ガイドになるということによいか。また、認定は、今後も実施するのか。

環境省：基本的には、今回の講習を受けた方が来年度のガイドのベースになると考えている。しかし、あくまでも今回の講習は実験のための講習であり、講習自体も実験としてとらえている。よって、今回認定されたガイドにも追加の講習等が必要になる可能性がある。今年度、再度、講習・認定を行うかどうかや、来年度に講習・認定を行うかについては、実験の結果や、今後、どの程度の人が認定を希望するのかなどを踏まえ、検討していく。

知床民宿協会：1 日 250 人入るという予定であり、1 人のガイドが 10 人客を連れるのならガイドは 25 人必要。1 日 2 回のガイドはできないだろう。そうすると、今回の定員が 20 人というのが間違い。これだけのことをするならばガイドの数を増す必要がある。

斜里町：ヒグマ活動期の 250 人については 1 日あたりの最大数を枠として計算したものである。優秀なガイドが沢山いて、枠一杯で安全管理をしながらまわすことは理想だが、満杯が目的ではなく、最も優先度が高いのは安全性である。そのためには多少想定よりも養成できるガイドが少なかったり、空きの枠がでることは、走り始めには仕方がない。最初から無理をして、色々なハードルを下げた設定した枠を満杯にして回すことを目的にしてしまったが故に、事故が起きることは本末転倒であると考えている。

しれとこ・フォーラム 21：ハードルを低くするというを言っているのではなく、積極的にレベルアップをはかるための人材育成の努力をして欲しいということ。

斜里町：そのように考えているが、予算やスケジュールが限られている中で、いっぺんにはすべてを対応するには無理があるのでご理解いただきたい。

知床斜里町観光協会：資料に「受付が無線連絡センターとなり」とあるが、ここでいう受付とは、ツアーの受付と同じ組織が行う必要があるのか。

知床財団：無線連絡と、事前の受付というのは必ずしも重なる仕事ではないので、そこは、2 つ別の組織が行うことはあり得る。

ウトロ地域協議会：11月の実験でも、駐車場がかなりの混雑であったと聞いているが、そのような状況で、五湖を出発地とするのではなく、世界遺産センターを出発地とするとかの対策を考えないと、お客さんが五湖に到着できないという事態も発生しうる。そういったことも考え、時間にスムーズに入ることができるという対策を練っていかなければならないのではないか。

知床財団：駐車場の対策については、もう少し検討させていただきたい。利用者へは、研修が終わった段階で周知することから、6月の頭からの参加者の受け入れとなる。それまでの中で検討させていただきたい。

知床エコツーリズム推進協議会：どういった基準で合否を決めているかについて公開をして欲しい。それが見えてくれば、どういった技術を持っていけば入れるということも見えてくる。今回の審査結果を公開して欲しい。

知床ガイド協議会：参加者にアンケートをとると思うが、参加できない人の意見も重要視したい。そういった人にもアンケートをとって欲しい。

知床エコツーリズム推進協議会：ここで議論しても始まらないと思うので、今後検討していただければ良いが、賠償保険について実際にこのようなガイドをしていて出る保険なのかを検討する必要がある。

ウトロ自治会：自治会の中でも結局は、今いるガイドを儲けさせるためにやっているのかという意見は多い。もっと地元で説明していく機会を設けて欲しい。地域の理解を得た上でやったほうが良いので、その労力は惜しまないで欲しい。ガイドを儲けさせるという意見は、ガイドを育てるという視点が見えていないからだと思う。今後会議の中ではっきりさせたほうが良い。

しれとこ・フォーラム21：時間も迫っているので、今出た意見を今後の課題として整理するというかたちで出して進めた方がよいと思う。

環境省：色々意見をいただいているが、この研修自体も実験なので、今出た意見も踏まえて、応募要件も含めて実験の中で検証していくこととして、資料案のとおり、スケジュールをふくめて講習・実験を進めさせていただきたい。今後、細かい修正点などについては、皆さんにメールで照会させていただいたり、講習に参加されるガイドの方と個別に調整させていただいたりしながら、進めていきたい。

全員：異議なし。

(7) 議題4. 高架木道の延長について (資料4)

環境省：資料4に基づき、「知床五湖園地高架木道整備状況」について報告。

斜里町：関連しての連絡。斜里町の作った高架木道について、元々暫定的な施設ということで、クマ対策上は、電柵等もなく高さも不十分。環境省の木道が終点までできたら、撤去という前提でいた。しかし、昨年からボルトに多数ゆるみが出てきており、又途中で段差があることから転びそうになるという苦情も出ている。今年、環境省の木道が中間展望台までできたので、斜里町の木道は閉鎖したい。管理業務上は使うが、一般は入らない形にしたい。ご了解いただきたい。

全員：了解

(8) 議題5. 会議資料等の公開について (資料5)

環境省：資料5に基づき、「会議資料等の公開」について説明。

全員：了解

(9) 議題6. その他

庄司准教授：知床五湖の利用者の流れや、知床五湖をどう利用してもらうかを検討するために、アンケート調査や、GPSによる利用動態調査等を実施予定。協議会の皆さんにも協力をいただきながら進めていきたい。

全員：了解

知床斜里町観光協会：受付施設の検討はいつ行うのか。仮施設でやるのかという問題も出ている。煮詰めることができるのか、方向性が出るのか是非進めて欲しい。

環境省：今回の協議会で受付施設のことと、植生保護期の利用調整の方法について、議論をする予定であったが、準備が追いつかなかった。次回には検討が進められるよう準備を進めたいのでご理解いただきたい。

温泉旅館共同組合：利用者の視点を忘れずに検討を進めて欲しい。

環境省：愛甲先生、庄子先生の協力も得ながら、利用者の意識を把握しながら検討を進めたい。

閉会

環境省：次回は7月頃を予定している。

以上

別紙 知床五湖の利用のあり方協議会（第2回）出席者

	機関名	出席者氏名
構成機関	ウトロ自治会	藤崎 達也
	ウトロ地域協議会	桜井 あけみ
	ウトロ地域協議会	佐藤 正悟
	ウトロ地域協議会	松本 鉄男
	自然公園財団	金盛 典夫
	斜里バス(株)	下山 誠
	斜里バス(株)	菅原 英人
	知床エコツーリズム推進協議会	松田 光輝
	知床温泉旅館共同組合	鈴木 完也
	知床ガイド協議会	綾野 雄次
	知床ガイド協議会	鈴木 謙一
	知床ガイド協議会	関口 均
	知床財団	寺山 元
	知床財団	増田 泰
	知床斜里町観光協会	青木 憲一
	知床斜里町観光協会	喜来 規幸
	知床斜里町観光協会	畠山 智隆
	しれとこ・フォーラム21	小川 佳彦
	しれとこ・フォーラム21	吉川 和成
	知床民宿協会	梅沢 征雄
ユートピア知床	上野山 文男	
事務局	環境省釧路自然環境事務所	荒畑 正広
	環境省釧路自然環境事務所	長谷川 修一
	環境省ウトロ自然保護官事務所	高橋 啓介
	環境省ウトロ自然保護官事務所	中村 仁
	北海道自然環境課 斜里分室	樋口 伸司
	北海道網走支庁環境生活課	大館 弘幸
	北海道網走支庁環境生活課	槇塚 貴稔
	斜里町環境保全課	百々 典男
	斜里町環境保全課	岡田 秀明
専門家	北海道大学 大学院	愛甲哲也
	北海道大学 大学院	庄子 康